

クオリティ・インディケーター(QI)・ クリニカル・インディケーター(CI)

各局による「医療の質向上への取組」

看護局



た な べ ま さ こ
 看護局長 田鍋 雅子

看護局では各部署が看護の質向上をめざした部署目標を立案し取り組み、各委員会活動やリンクナース会活動でも質向上をめざした活動を展開しています。今回はアウトカム指標として令和5年度から収集を始めた

【看護6】認知症高齢者の日常生活自立度悪化予防率と**【看護7】**せん妄発症予防率について報告します。

看護局のアクションプランのもと、認知症ケアチーム専従看護師を中心にせん妄・認知症ケアリンクナース会や看護副科長のQC(Quality Control)活動など、高齢者ケアに注力しています。ICU・HCUを含めた成人入院フロアでは、認知機能の悪化予防やせん妄発症予防に取り組み、退院後の患者さんのQOLの向上や維持につながるように励んでいます。看護職員の頑張りを可視化するために、独自に項目を追加しました。

【看護6】認知症高齢者の日常生活自立度悪化予防率は、認知症のある高齢者の認知機能の悪化を予防できたかどうかを反映し、また**【看護7】**せん妄発症予防率は、せん妄リスクの高い患者さんのせん妄発症が予防できたかどうかを反映しています。この指標は65歳以上の高齢者の中で、最も入院患者割合の多い70-84歳を対象としてデータ収集を行っています。超高齢者のせん妄発症は防ぎえない場合があることや、70-84歳の患者さんのせん妄発症が予防できていれば、その他の年齢の方への看護ケアも適切であるという判断が可能と考え、対象年齢を限定しました。これらのデータは、RPAを用いて看護計画から収集できるようにしています。しかし独自の指標のためベンチマークができず、今後も指標としての検証を行う必要があると考えています。

今年度は紹介した2つの指標についても目標を設定し、PDCAサイクルを回しています。看護ケアの成果が可視化できますので、看護師のモチベーションUPにつなげたいと思います。

看護局「看護の質」インディケーター 2023

指標番号	指標名称	R3	R4	R5	算出単位	分子 / 分母 および 備考		
	各種専門領域認定資格取得者率(%)	25.7	26.8	28.4	年度	分子:各種専門領域認定資格取得者数(詳細は下記) 分母:看護局所属の全職員数備考:特性の専門領域の認定資格取得や研修修了者数は看護ケアの質に影響する(R3年度は183/711人、R4年度は186/695人、R5年度は197/693人)		
	資格・研修名	R3	R4	R5	資格・研修名	R3	R4	R5
	がん看護専門看護師	5	5	4	高知県臓器移植院内コーディネーター	3	3	3
	小児看護専門看護師	3	4	4	レシピエント移植コーディネーター認定	2	2	2
	急性・重症患者看護専門看護師	2	2	2	日本褥瘡学会認定師	1	1	0
	家族支援専門看護師	1	1	1	栄養サポートチーム専門療法士認定	1	1	0
	皮膚・排泄ケア認定看護師	3	3	3	呼吸療法認定士	33	34	37
	感染管理認定看護師	2	2	1	心臓リハビリテーション指導士	2	1	2
	集中ケア認定看護師	2	1	1	リンパ浮腫指導技術者	4	3	3
	不妊症看護認定看護師	2	2	2	INE(認定IVR看護師)	5	5	7
	救急看護認定看護師	2	2	2	消化器内視鏡技師	8	8	10
	新生児集中ケア認定看護師	1	1	1	第2種滅菌技士	4	5	7
看護 1	脳卒中リハビリテーション看護認定看護師	1	1	0	ICLSインストラクター(ICLS・BLSインストラクター)	16	19	16
	摂食・嚥下障害看護認定看護師	1	1	1	JPTecインストラクター	2	2	3
	慢性呼吸器疾患看護認定看護師	1	1	1	JNTECインストラクター	3	3	3
	手術看護認定看護師	1	1	1	JTAS(緊急度判定支援システム)インストラクター	1	1	1
	慢性心不全看護認定看護師	1	1	1	KIDUKI(ファシリテーター)	2	2	2
	がん性疼痛看護認定看護師	1	1	1	ISLS/PSLS(脳卒中初期診療)ファシリテーター	6	6	6
	がん化学療法看護認定看護師	2	2	2	災害派遣医療チーム研修(日本DMAT)	10	10	11
	乳がん看護認定看護師認定看護師	1	1	1	災害派遣医療従事者研修(高知DMAT)	10	10	11
	がん放射線療法看護認定看護師	1	1	1	高知県看護協会災害支援ナース	4	4	4
	日本精神科看護協会 精神科認定看護師	1	1	1	新生児蘇生法「専門」コース・インストラクター	3	3	4
	日本看護協会 認定看護管理者	8	8	8	プラクティカルCTG判読スペシャリスト	6	6	6
	特定看護師(特定認定看護師含む)	—	—	2	がん領域(ELNEC-J)指導者	3	3	3
	第一種衛生管理者	5	5	5	急性期領域(ELNEC-J)指導者	2	2	2
	医療安全管理者認定	1	1	1	弾性ストッキング・コンダクター認定	1	1	1
	高知県糖尿病療養指導士	2	2	5	アロマテラピー検定1級	1	1	1

指標番号	指標名称	R3	R4	R5	算出単位	分子 / 分母 および 備考
看護 2	経験年数5年以上の看護師の占める割合(%)	86.5	87.9	88.0	年度	分子:経験年数5年以上の正規看護師数 分母:看護師(正規職員)数 備考:一般的に経験年数5年以上の看護師はジェネラリストとして臨床診断能力や実践能力を備えている
看護 3	男性看護師割合(%)	10.3	10.2	10.5	年度	分子:正規男性看護師数 分母:看護師(正規職員)数 備考:男性看護師と女性看護師の考え方(視点)や、性差は看護の質に影響する
看護 4	新卒新人看護師3年定着率(%)	76.7	100.0	75.0	年度	分子:3年前の4月1日採用の新卒新人看護師のうち、データ抽出時点で勤務継続している看護師数(4月1日を起点とする) 分母:3年前の4月1日採用の新卒新人看護師 備考:臨床経験3年以降は、クリニカルラダーレベルIIに到達し日常的な看護実践がほぼ単独で実践できる。医療チームの一員として役割を遂行できる看護師の確保は看護の質向上に繋がる
看護 5	デスカンファレンス件数(%)	10.3	8.2	19.3	年度	分子:デスカンファレンス件数 分母:死亡退院患者数 備考:家族および職員のグリーフケアが行われた割合を示す
看護 6	認知症高齢者の日常生活自立度悪化予防率(%)	—	—	77.7	年度	分子:認知症高齢者自立度I・IIの患者数-入院後III以上に变化した患者数 分母:認知症高齢者自立度I・IIの患者数 備考:認知症高齢者の入院による自立度の悪化を防ぐことは、行動心理症状(BPSD)の予防と今後の患者のQOLにつながることも、認知症ケアの質を反映すると考える
看護 7	せん妄発症予防率(%)	—	—	97.1	年度	分子:せん妄ハイリスク患者数-せん妄を発症した患者数 分母:せん妄ハイリスク患者数 備考:せん妄発症を予防することは、患者の術後経過に影響するため、看護師のせん妄予防ケア状況を反映し、看護ケアの質を示すと考える

薬剤局



薬剤局長 公文 登代

薬剤局からは、医療の質の向上、医療安全の確保の観点から、薬剤師が主体的に関わる薬物療法を支えるための指標を提示しています。

令和5年度は新型コロナウイルス感染症が5類に移行し、流行状況に応じた対応を必要としつつも、徐々にコロナ禍前の診療体制に戻ってきた年でした。

当院はがん診療拠点病院として抗がん剤治療を受けられる患者さんの安全管理のため、薬剤師が抗がん剤の処方監査と調製を継続して行なっています【薬剤1】。入院病棟においては治療効果の向上や副作用防止の観点から病棟薬剤師を配置し薬剤管理指導を行っており、令和3年度はコロナの感染流行の影響もあり落ち込みましたが、令和4年～5年度は

回復しました【薬剤2】。病棟薬剤業務では医師・看護師・その他の医療スタッフへ医薬品に関する情報提供を行っています【薬剤3】。また質の高い感染症治療をサポートするため、抗MRSA薬(MRSA;メチシリン耐性黄色ブドウ球菌(多くの抗生物質に耐性を持つブドウ球菌))の使用時にはTDM(薬物血中濃度モニタリング)も行っています【薬剤4】。昨今は、多職種からなるチーム医療の実践がより良い治療・ケアには欠かせません。最新の薬の知識が必要とされる医療現場において、薬剤師は常に医師をはじめとする医療スタッフから、さまざまな場面で協力を求められます。より高い専門性を発揮するために各種専門資格の取得を推進・支援し、学会発表など質の向上にも注力しています【薬剤5】。

最後になりましたが、薬剤師としての知識・スキルを高め、患者さんにより質の高い医療を提供できるよう今後も取り組んでいきたいと考えています。

薬剤局「薬剤的管理の質」インディケータ 2023

指標番号	指標名称	R3	R4	R5	算出単位	分子 / 分母 および 備考			
薬剤 1	抗がん剤調製件数(件)	17,588 (68.5)	17,765 (73.4)	18,266 (70.3)	年度	備考:抗がん剤注射の調製と監査による安全管理 ()は平日1日平均件数			
薬剤 2	薬剤管理指導実施率(%)	49.4	72.9	79.6	年度	分子:薬剤管理指導を受けた患者数 分母:新規入院患者数 備考:薬剤師の薬学的管理指導は医療の質改善に繋がる			
薬剤 3	他職種連携における 質疑応答件数(件)	4,063	3,874	3,703	年度	備考:チーム医療における薬剤師の貢献度としての指導 病棟での医師、看護師等から医薬品に関する相談と情報提供数			
薬剤 4	抗MRSA薬のTDM 実施率(%)	91.4	93.1	91.0	年度	分子:抗MRSA薬血中濃度測定患者数 分母:抗MRSA薬投与患者数(単回使用を除く) 備考:抗MRSA薬の適正使用に関する指標			
薬剤 5	薬剤局に関連する各種認定 資格取得者延べ人数(人)	35	38	39	年度	備考:特定の専門領域の認定資格取得者の人数により、薬剤師による薬物療法への支援義務の質が向上する			
各種資格取得人数(人)		R3	R4	R5	各種資格取得人数(人)		R3	R4	R5
日本医療薬学会 薬物療法指導薬剤師		1	1	1	日本臨床栄養代謝学会 栄養サポートチーム専門療養士		2	2	1
日本医療薬学会 医療薬学専門薬剤師		2	2	2	日本臨床救急医学会 救急認定薬剤師		0	0	1
日本医療薬学会 がん専門薬剤師		1	1	1	日本DMAT隊員		5	5	5
日本臨床腫瘍薬学会 外来がん治療認定薬剤師		1	1	1	高知県災害薬事コーディネーター		3	4	4
日本病院薬剤師会 がん薬物療法認定薬剤師		1	1	0	日本病院薬剤師会 病院薬学認定薬剤師		7	9	12
日本病院薬剤師会 感染制御認定薬剤師		2	2	2	薬学教育協議会 認定実務実習指導薬剤師		6	6	6
日本化学療法学会 抗菌化学療法認定薬剤師		4	4	3					

医療技術局



にしもり ゆかり
医療技術局長 西森 由加里

医療技術局では「職員の育成強化」を目標に、平成28年よりクリニカルインディケーター(CI)として6つの指標を設定し医療技術の維持向上に取り組んできましたが、当時の指標が現在の「質向上」に繋がらないものできたため、昨年度より指標を見直しました。各職種の医療技術の質を客観的に評価できるものとして

【医技1】「専門・認定資格の取得数」を新たな指標とします。資格を取得し維持するためには、研修会や学会への参加、学会発表、講演などが必要です。日々のたゆまぬ努力の結果がこの指標に反映されています。指標は表のとおり、各部ごとにそれぞれの業務の専門性が評価できる資格や領域ごとの認定資格、日々進化する医療に対応する知識と技術力が評価される資格や指導士などの資格を選出しました。医療技術者として自己研鑽は必要不可欠です。専門分野のスキルやレベルを向上し、患者さんに必要とされる医療技術が提供できるように、今後も日々の研鑽に努め「医療技術の質と安全性」を確保したより良い医療環境の実現に向けて取り組んでいきます。

医療技術局「医療技術の質」インディケーター 2023

指標番号	指標名称	R4	R5	算出単位	分子 / 分母 および 備考				
医技1	各職種の専門領域に関連する各種認定資格取得者延べ人数(人)	103	115	年度	備考:各職専門領域の認定資格取得により、医療技術の質と安全性が向上する				
	各種資格取得人数(人)		R4	R5	各種資格取得人数(人)				
	臨床検査技術部	細胞検査士		3	3	臨床工学技術部	第1種 ME技術者	3	3
		認定輸血検査技師		1	1		臨床 ME専門認定士	2	2
		超音波検査士(循環器)		1	1		手術室関連専門臨床工学技士	1	1
		超音波検査士(消化器)		2	2		呼吸治療専門臨床工学技士	1	1
		超音波検査士(体表臓器)		2	2		血液浄化専門臨床工学技士	1	1
		乳がん検診超音波検査実施技師		1	1		認定集中治療関連臨床工学技士	1	2
		認定心電検査技師		2	3		呼吸療法認定士	6	6
		JHRS認定心電図専門士		5	6		透析技術認定士	8	8
		専門技術師(脳波分野)		1	1		体外循環技術認定士	4	4
		専門技術師(筋電図・神経伝導分野)		1	1		周術期管理チーム臨床工学技士	0	1
		生殖補助医療胚培養士		2	2		心血管インターベンション技師	3	3
		緊急臨床検査士		2	2		専門理学療法士(基礎理学療法)	1	1
	二級臨床検査士		6	6	認定理学療法士(呼吸)	0	0		
	放射線技術部	第一種放射線取扱主任者		2	2	リハビリテーション技術部	認定理学療法士(脳卒中)	1	1
		放射線治療専門放射線技師		4	4		認定理学療法士(循環)	2	2
		放射線治療品質管理士		2	2		認定言語聴覚士(摂食嚥下障害領域)	1	1
		核医学専門技師		0	0		集中治療理学療法士	0	1
		X線 CT認定技師		4	4		嚥下相談員	0	1
磁気共鳴(MR) 専門技術者			0	0	心臓リハビリテーション指導士		5	5	
検診マンモグラフィ撮影認定技師			6	6	呼吸療法認定士		2	7	
救急撮影認定技師			1	1	心不全療養指導士		1	1	
放射線機器管理士			1	1	登録理学療法士		8	8	
放射線管理士			1	1	認定歯科衛生士		2	2	
画像等手術支援認定診療放射線技師		0	0	サルコペニア・フレイル指導士	0	1			

栄養局



じゅうまん けいこ
栄養局長 十萬 敬子

栄養局は開院時から各病棟に管理栄養士を配置し、臨床栄養管理を行っています。臨床栄養管理では、栄養スクリーニングを全ての患者さんに実施し、その情報に基づき栄養アセスメント・モニタリングを他職種と連携して行っています。さらにチーム医療としてNST(栄養サポートチーム)や緩和ケア、摂食嚥下、褥瘡対策等の各チームにも参加し、日々個々に合わせた栄養介入を行っています。

栄養局では、栄養食事指導件数と早期栄養介入管理加算、周術期栄養管理加算、各種認定資格取得率をインディケーターの指標としています。

栄養食事指導は、慢性疾患やがん疾患、また摂食嚥下困難等の患者さんを対象に行っており、令和4年度は早期栄養介入管理加算や周術期栄養管理実施加算の影響から件数が減少しましたが、

令和5年度は5,129件となり、前年度より146件増加しました【栄養1】。早期栄養介入管理加算は、対象フロアの患者さんに対して入室から48時間以内の経腸栄養開始に向けた介入を行った場合に算定しており、令和4年度は対象フロア拡大に伴う休日勤務開始により算定件数は3,017件、令和5年度は5,995件と前年度より2,978件増加しました【栄養2】。周術期栄養管理実施加算は、全身麻酔で手術をされる患者さんを対象とし、手術前から栄養介入を行った場合に算定しており、令和5年度の算定件数は2,632件で、前年度より841件増加しました【栄養3】。

その他には、専門職としての質の向上のために管理栄養士における学会等の認定取得を指標としています【栄養4】。令和5年度は、職員交代や新人採用もあり資格取得者率は161.5%で、前年度より2.1%減少しましたが、今後も引き続き認定資格の取得に向けた職員のサポートを行っていきます。

今後も栄養局の理念である『県民・市民の健康づくりのために、患者さんに喜んでいただける食事提供とチーム医療による栄養サポートなど、栄養ケアサービスの実践』に向けて取り組んでまいります。

栄養局「臨床栄養管理の質」インディケーター 2023

指標番号	指標名称	R3	R4	R5	算出単位	分子 / 分母 および備考
栄養1	入院・外来の栄養食事指導年間件数	6,084	4,983	5,129	年度	個人・集団栄養食事指導の年間指導件数。 *R2年度より早期栄養介入管理加算算定との併用での算定できず。 算定件数→指導件数に変更。
栄養2	早期栄養介入管理加算算定件数	146	3,017	5,995	年度	R4年度対象拡大。年間算定件数。
栄養3	周術期栄養管理実施加算算定件数	—	1,791	2,632	年度	R4年度開始。年間算定件数。
栄養4	各種認定資格取得率(%)	163.6	163.6	161.5	年度	分子:各種認定資格数(詳細は下記) 分母:栄養局職員数 備考:専門領域の認定資格取得により栄養管理の質向上につながる。 R3年度18/11人、R4年度18/11人、R5年度21/13人
	各種認定資格 (人)					
	糖尿病療養指導士(日本糖尿病療養指導士認定機構)					
	高知県糖尿病療養指導士					
	栄養サポートチーム(NST)専門療法士(日本臨床栄養代謝学会認定)					
	病態栄養専門管理栄養士(日本病態栄養学会認定)					
	がん病態栄養専門管理栄養士(日本病態栄養学会認定)					
	がん病態栄養専門管理栄養士研修指導師(日本病態栄養学会認定)					
	心不全療養指導士(日本循環器学会認定)					
	腎臓病療養指導士(日本腎臓病学会、日本栄養士会他認定)					
	静脈経腸栄養管理栄養士(日本栄養士会認定)					
	医療安全管理者(日本病院会認定)					
	高知 DMAT隊員					
日本栄養士会災害支援チームスタッフ						

事務局



はま だ ひとし
事務局長 濱田 仁

事務局では当院が県内の基幹的な公立病院としての役割を継続的に果たすことができるよう、「高知医療センター経営計画」に基づき「経営の健全化」に取り組んでいます。また医療現場においては、高度急性期病院としての機能を十分に発揮するために、人的および物的な環境整備をしっかりと行い、県民や市民の皆さまから信頼いただける公立病院として、高水準の医療を安定して提供できるよう努めています。

事務局における人的環境整備としては、診療情報管理士や医療情報技師、医療ソーシャルワーカーなどの専門職を必要に応じて採用し、医師事務作業補助者による診断書や証明書、診療情報提供書等の書類作成、学会関連のデータ登録や調査などを通じて、医師の事務負担の軽減に取り組んでいます。これにより、医師が患者さんとの時間を多く確保できる体制を維持してまいります。

また、「働き方改革」への取り組みとして、全ての職員の勤務環境および処遇の改善も積極的に行っています。今後も、より良質な医療を安定して提供できる取り組みを進めてまいります。

事務局「医療事務管理の質」インディケーター 2023

指標番号	指標名称	R3	R4	R5	算出単位	分子 / 分母 および備考
事務1	事務局に関連する各種認定資格取得者率(%)	51.7	50.9	49.2	年度	分子:事務局に関連する各種認定資格取得者数 分母:事務局所属の全職員数(詳細は下記) 備考:特定の専門領域の認定資格取得者の人数により、事務局による医療事務の質が向上する (R3年度は30/58人、R4年度は29/57人、R5年度は29/59人) ※複数の資格を取得している者を重複計上
	各種認定資格取得人数 (人)					
	診療情報管理士					
	医療情報技師					
	社会福祉士					
精神保健福祉士						
事務2	医師事務作業補助者(医療秘書)	43	43	46	年度	備考:医師の事務的作業を補助することにより、医師が診療に専念でき、医療の質が向上する